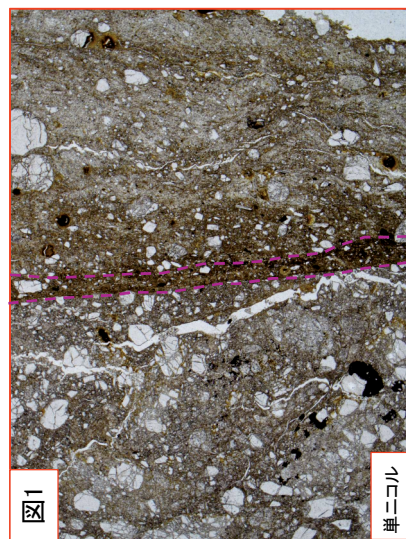
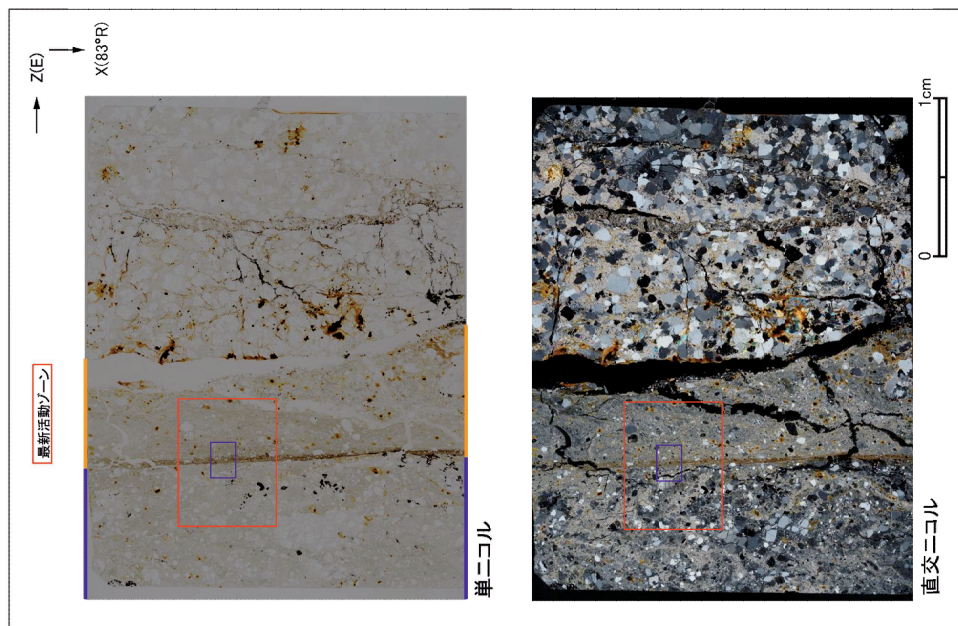
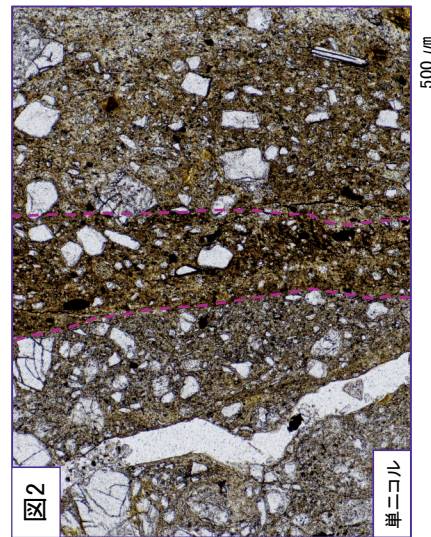


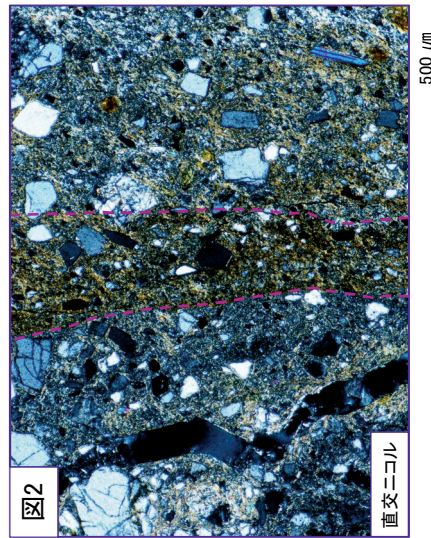
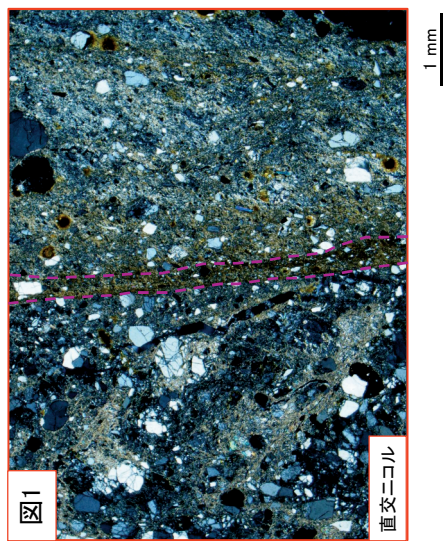
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1, 図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1, 図2)
- 岩片は少ない。(図1, 図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1, 図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



(肉眼観察結果 深度50.62m)

- 深度50.62mには暗褐色粘土を挟在している。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された暗褐色粘土は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	フィルム状	無

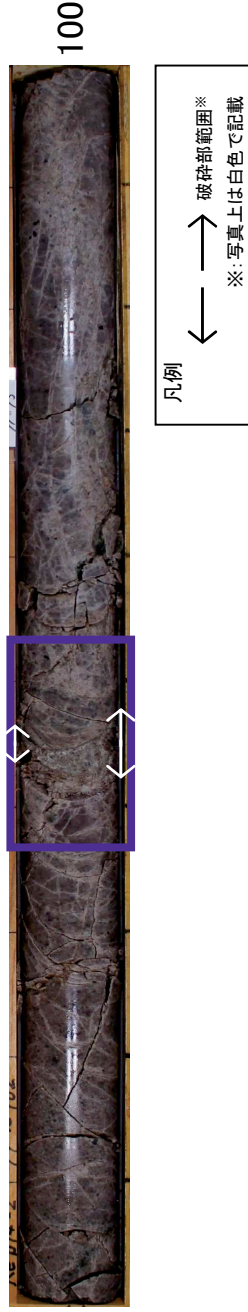
*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度99.41～99.45mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した力タクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●99.41～99.45m：破砕部
灰白色粘土混じり礫状部(Hb)。上端35°，下端40°。やや硬質。網目状に粘土が分布する。幅3cm程度。

コア写真



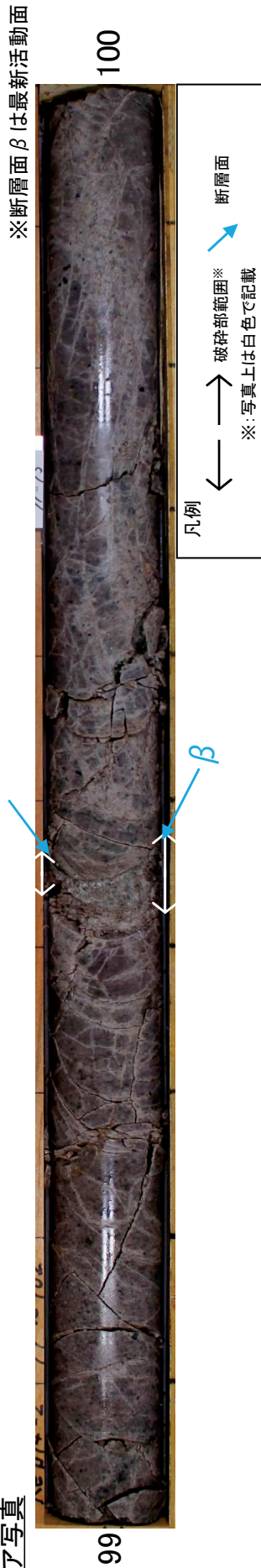
灰白色粘土が網目状に分布する



青枠部拡大
0 5 cm

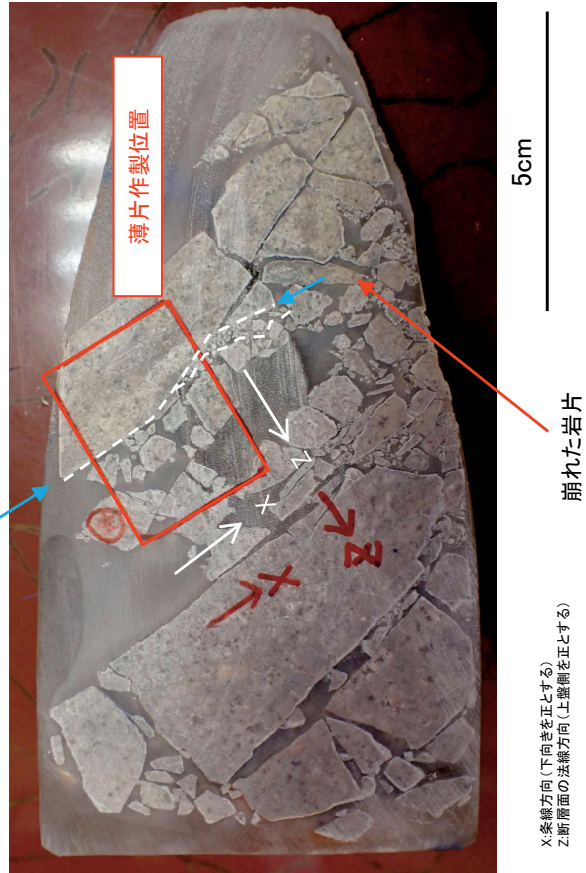
・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

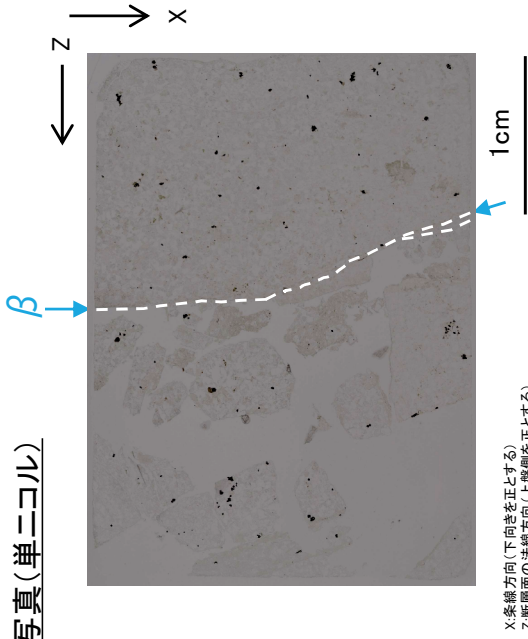


※断層面βは最新活動面

薄片作製位置写真

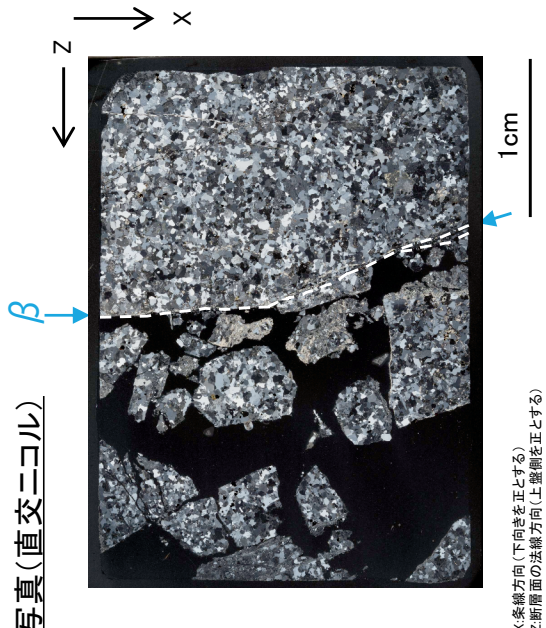


薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(直交ニコル)



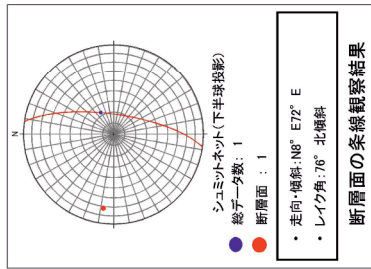
X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

第7.4.4.353図(2)

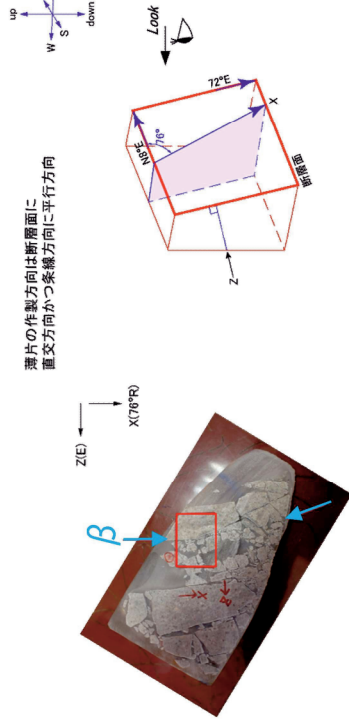
破砕部性状 H29-ReB14-2 深度99.41~99.45m (薄片作製位置)

- ・ H29-ReB14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層である。
- ・ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト)断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で連続しない。
 - 岩片は多い。
 - (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。

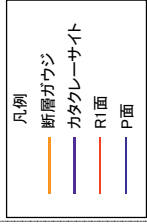
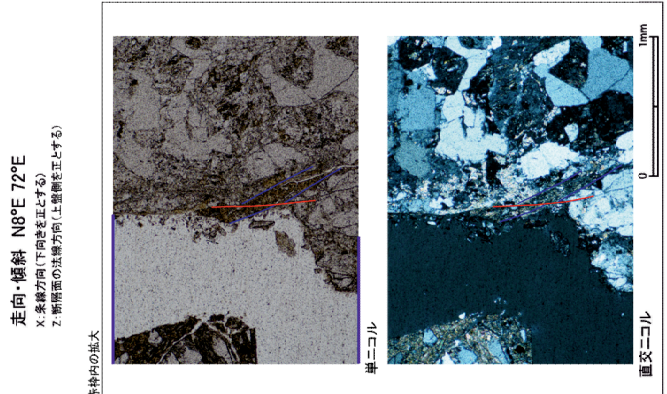
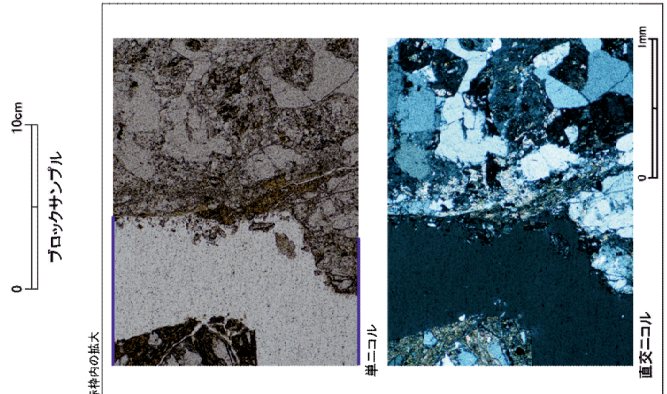
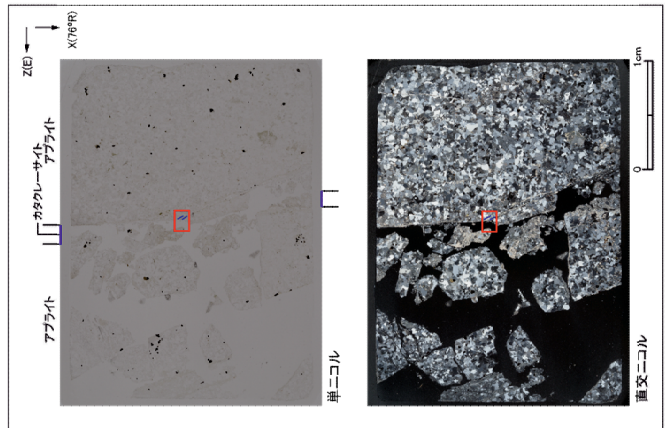
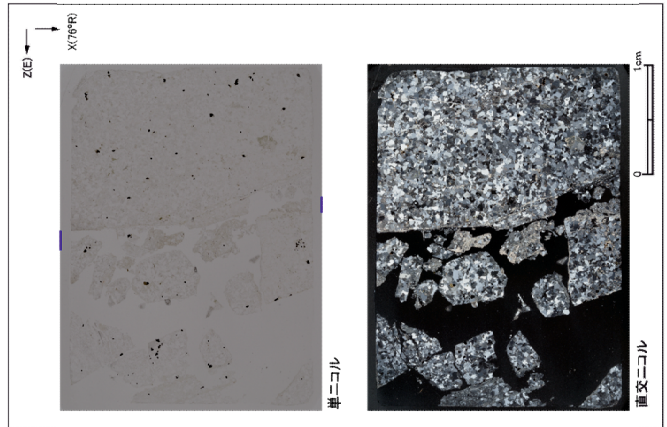
※断層面βは最新活動面



最新活動ゾーン

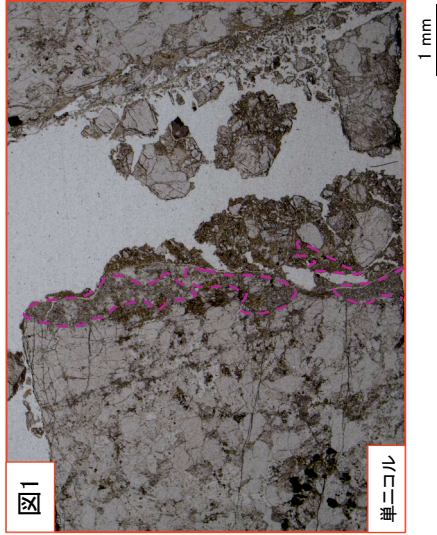
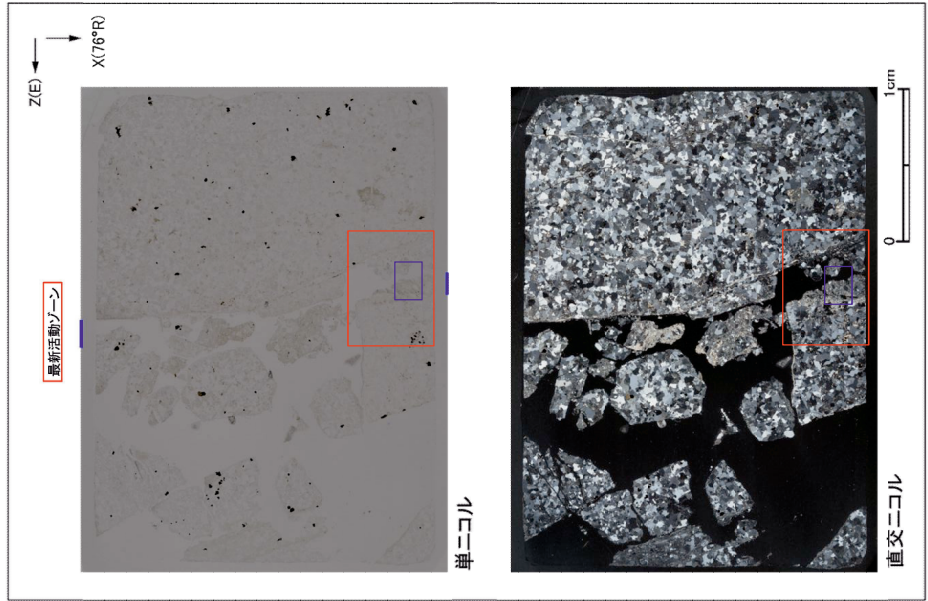


薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

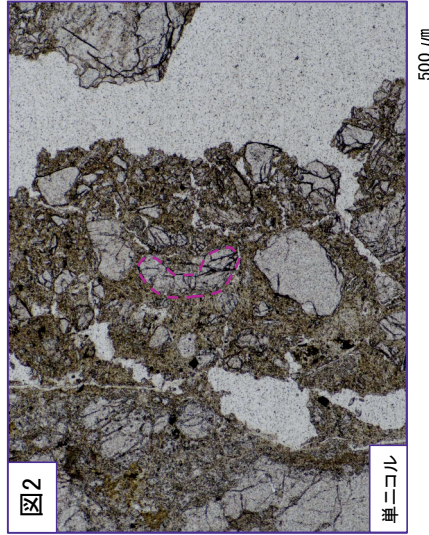
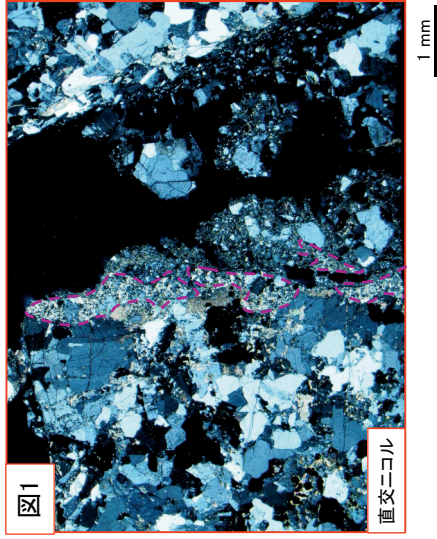


第7.4.4.353図 (3) 破砕部性状 H29-ReB14-2 深度99.41~99.45m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

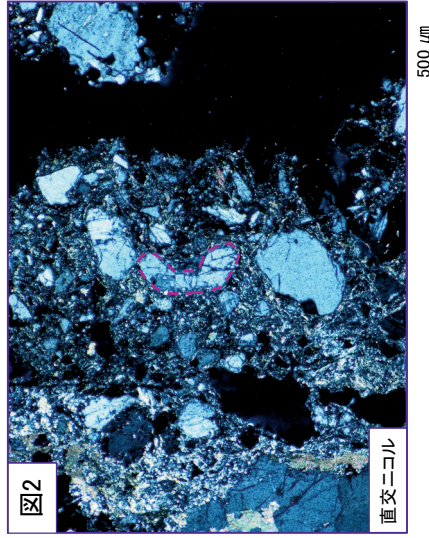
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で連続しない。(図1)
 - 岩片は多い。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図1)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

(肉眼観察結果 深度99.45m)

- 深度99.41～99.45mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、断層ガウジの特徴が認められなかった。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で連続しない。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、その特徴から変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度105.26～105.32mの「粘土混じり細片状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度105.32～105.37mの「細礫混じり灰白色粘土状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

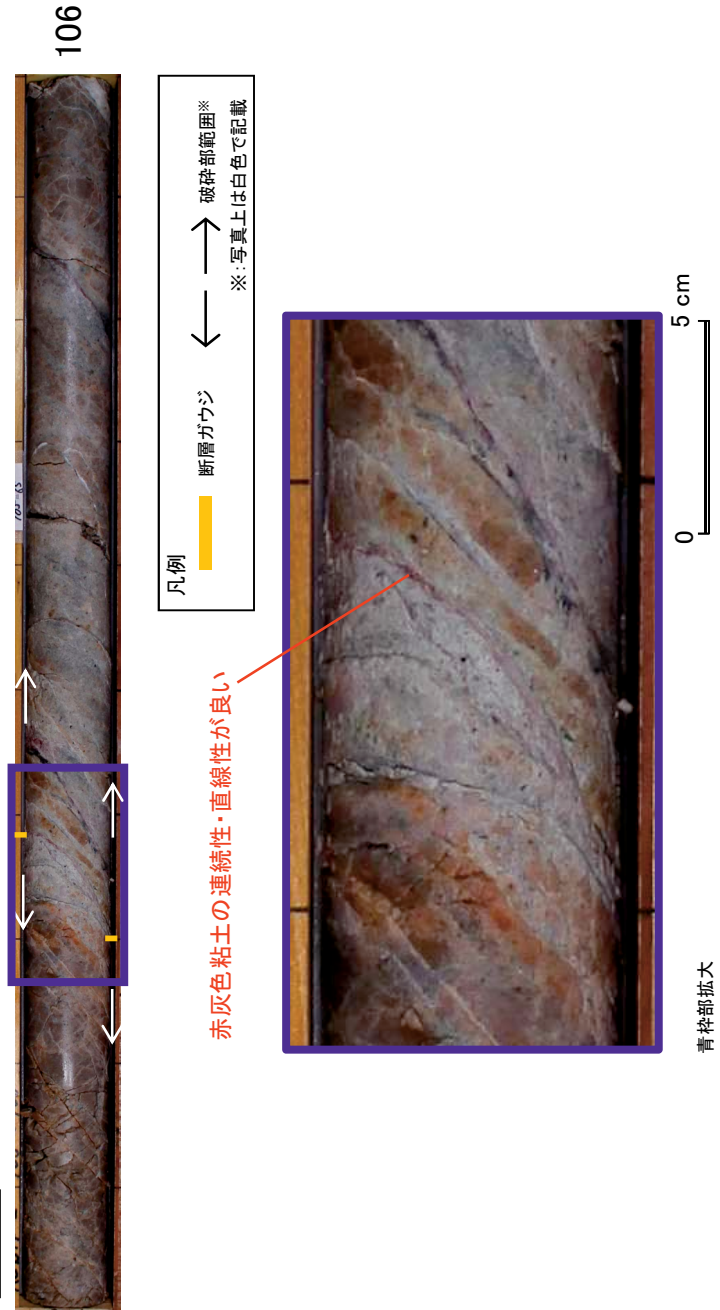
・深度105.37mには赤灰色粘土を挟在している。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度105.37～105.50mの「粘土混じり細片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●105.26～105.50m：破碎部
 105.26～105.32m：灰白色粘土混じり細片状部(Hj)。上端・下端とも50。やや硬質。
 105.32～105.37m：細礫混じり灰白色粘土状部(Hb)。下端57°。幅3cm程度。やや軟質。下端に幅3mm程度の軟質な赤灰色粘土を伴う(Hc-1)。
 105.37～105.50m：灰白色粘土混じり細片状部(Hj)。下端55°であるが不明瞭。やや軟質。下端に幅1mm程度の軟質な赤灰色粘土を伴う。

コア写真



第7.4.4.354図 (1) 破碎部性状 H29-ReB14-2 深度105.26～105.50m (肉眼観察による断層岩区分)